

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																					
北海道ハイテクノロジー専門学校		昭和62年12月4日	塩野 寛		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12-1 (電話) 0123-36-8119																																					
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																					
学校法人産業技術学園		昭和63年1月5日	宮川 藤一郎		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12-1 (電話) 0123-36-8119																																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																					
医療	医療専門課程	バイオテクノロジー学科		平成6年文部科学省 告示第84号																																						
学科の目的	生物工学は地球上の生命を支え、利用する技術として有用なものである。農業・漁業等の1次産業から医薬・食品そして環境に関する研究まで、幅広いバイオ系人材の養成はこれからの社会には必要不可欠である。当学科では、食品・医薬品や遺伝子工学・先端医療など幅広い分野のバイオ系技術者の人材養成を行う。																																									
認定年月日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																																				
3年	昼間	2685時間	1050時間	510時間	0時間	1125時間																																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																					
90	34	0	4	31	35																																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・平常点評価 49点以下不合格、50点以上合格 A:80点以上、B:60点台、C:50点台、D:40点台、E:39点以下																																					
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月4日曜日～8月3日曜日 ■冬季:12月24日～1月3日曜日 ■学年末:3月2日曜日～3月31日		卒業・進級条件		選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。																																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年度初めに個人面談実施し学習面・生活面・健康面等の不安に応じて随時面談や指導を行い、必要に応じて保護者も含めて対応		課外活動		■課外活動の種類 高校生の理科授業、地域の科学祭典、こども科学まつり等の手伝いなど ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																																					
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 食品・医薬品・化粧品の製造・検査・分析会社、食肉等生産会社 ■就職指導内容 1年次から業界研究を実施、一般教養対策、面接指導等をキャリアセンターと連携して一人ひとりに対応して実施 ■卒業生数 : 18 人 ■就職希望者数 : 18 人 ■就職者数 : 17 人 ■就職率 : 94.4 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 94.4 % ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>14名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>毒物劇物取扱管理者</td> <td>③</td> <td>15名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>MOS-Word</td> <td>③</td> <td>13名</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>MOS-Excle</td> <td>③</td> <td>15名</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>危険物取扱主任者乙4種</td> <td>③</td> <td>13名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>X線作業主任者</td> <td>③</td> <td>7名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>技術士補(生物)</td> <td>③</td> <td>10名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>販売士3級</td> <td>③</td> <td>8名</td> <td>6名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 3年間で10～16個の資格試験を受験し平均の合格率は50%～100%程度。</p>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	中級バイオ技術者認定試験	③	14名	14名	毒物劇物取扱管理者	③	15名	14名	MOS-Word	③	13名	13名	MOS-Excle	③	15名	15名	危険物取扱主任者乙4種	③	13名	7名	X線作業主任者	③	7名	3名	技術士補(生物)	③	10名	5名	販売士3級	③	8名	6名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																							
中級バイオ技術者認定試験	③	14名	14名																																							
毒物劇物取扱管理者	③	15名	14名																																							
MOS-Word	③	13名	13名																																							
MOS-Excle	③	15名	15名																																							
危険物取扱主任者乙4種	③	13名	7名																																							
X線作業主任者	③	7名	3名																																							
技術士補(生物)	③	10名	5名																																							
販売士3級	③	8名	6名																																							
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成29年4月1日時点において、在学者 42名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 42名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生サポートアンケート、担任による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学生生活・学業・実習・適応性などをチームで対応し退学者0名を目指している		■中退率 0.0 %																																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 募集停止のため無し ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 給付金利用者: 名																																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無し																																									
当該学科のホームページURL	URL: http://www.hht.ac.jp/																																									

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

食品・医薬品や遺伝子工学・先端医療や環境に関する研究まで、幅広いバイオ系人材の養成を実践するためのカリキュラム編成のための委員会を組織する。教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されており、教育課程編成委員会規定に則り適切な運営を行っている。また、学校運営においては教務組織規則において「委員会での審議を通じて示された要請、情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実践するにふさわしい教育課程の編成に努める」と規定されている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
浅野 行蔵	一般社団法人 北海道食品産業協議会 技術顧問	平成27年9月1日～平成29年8月31日(2年)	③
扇谷 悟	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター長	平成30年5月1日～平成31年8月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 開催時期:7月及び2～3月

(開催日時)

- ・平成29年 第1回 平成29年3月30日 15:00～17:00 第一校舎 113教室
- ・平成29年 第2回 平成30年3月30日 15:00～17:00 第一校舎 113教室
- ・平成30年 第1回 平成30年8月3日 15:00～17:00 第一校舎 113教室
- ・平成30年 第2回 平成31年2月22日 15:00～17:00 第一校舎 113教室

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

業界団体からの目線、学術機関としての見地により卒業生・在校生にたいするご意見、カリキュラムや教育方針に対するご意見やご提案をいただき、授業・実習・学生指導に反映させている。コミュニケーション能力等の社会人基礎力に関わる要望が多いため、グループ学習やプロジェクト学習等を取り入れた授業実習を多く設定している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

身に付けた基礎的な知識や技術を元に、現場での実習を行う。例えば葡萄畑における農作業を通じて萌芽から結実、ヴェレゾン、収穫など醸造用葡萄の四季を通じての変化を観察し作業をすることにより農産物としてのワインを理解する。その中で専門家による「ものづくり」の哲学を学ぶ。また、産業総合技術研究所北海道センターでは「バイオものづくり」を重点として研究活動をおこなっている。最先端分野の研究者により、業界の動向や必要な知識・技術、研究に対する姿勢を学び、研究・実験における問題発見、問題解決の手法を理解する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校の授業で学ぶ基礎的な自然科学の知識等をベースに、バイオ技術者として必要な専門的な知識や技術を学ぶ。内容は多様で多岐に亘るが、連続的な学習をすることができる。指導担当者の先生方とは、講師会議の他、少なくとも実習の準備段階及び成績評価後に面談を行い、具体的な指導内容について意見交換を行い、その先の指導などに反映させる。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
業界研究Ⅰ	最先端バイオテクノロジー分野における知識・実験技術、研究を遂行する姿勢を業界で活躍する研究者から学ぶ。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター
業界研究Ⅱ	新しいワイン産地としての北海道における醸造用葡萄栽培の基礎を学び、廃棄物等から新しい商品のアイデアを考える。	北海道中央葡萄酒株式会社 千歳ワイナリー
卒業実習Ⅰ-B	国立の研究所で最先端のテーマに沿って卒業研究を行う。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター
卒業実習Ⅱ-B	国立の研究機関の生物プロセス研究部門において基礎的・基盤的研究を論文作成まで一貫して行う。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター
卒業実習Ⅲ-B	大麦わかば等の製品の機能的検証や安全性・安定性試験等を行いエビデンスの検証を行う。	日生バイオ株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門学校の教員は専門知識・技術のみならず、教育力、クラス運営力など、学生に対する対応力求められる。また、業界の変化を敏感に察知し、柔軟に教育課程を作成し運営する力も必要である。このような専門学校教員としてのスキル向上のため必要な能力とそれに即した研修を組織的に行い学生にフィードバックする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成30年2月、5月 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部会
- ・平成30年7月 北海道食品産業協議会 微生物講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成30年4月 滋慶学園北海道 JESC講師研修会
- ・平成30年7月 北海道私立専修学校各種学校連合会 「職業実践専門課程」に係わる研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成30年9月、12月 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部会
- ・平成30年11月 北海道食品産業協議会 HACCP講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成30年10月 滋慶教育科学研究所 マネジメント研修
- ・平成30年12月 滋慶教育科学研究所 2018JESC学会

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

日々の学校運営については学内の学校長、副校長、教務部長、部門長の会議である「運営会議(定例会毎月2回)にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度終了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の特色は何か ・学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか ・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか ・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか ・意思決定システムは確立されているか ・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか ・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか ・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教員の専門性を向上させる研修を行っているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導體制はあるか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか ・資格取得率の向上が図れているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか ・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備は出来ているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか ・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己点検自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価は年に1度実施している学校関係者評価委員会により各委員の意見を反映し学校運営に活かすべく方針を決定している。

業界・地域の新しい動きをリードする産官学協同教育を柱とした教育環境の提供を推し進める。

1. 早期から専門性に触れられる(アーリーエクスポージャー)カリキュラム構成にする。
2. 模擬患者演習、業界との共同研究をカリキュラムに取り入れることにより、主体的、対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進する。
3. 創造力を育む異分野交流学習の仕組みを創り、実行する初年度とする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 主任	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	卒業生代表
松本 晴美	学生の保護者	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	保護者代表
大場 真哉	帯広大谷高等学校 教諭	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	高等学校関係者
早坂 貴敏	恵庭市議会議員	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	地域関係者
足立 晋	医療法人北晨会 恵み野病院 事務長	平成29年9月1日～平成31年8月30日(2年)	業界関係者
松本 耕二	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者
真鍋 淳	医療法人社団 マナベ矯正歯科 理事長	平成29年7月1日～平成31年8月30日(2年2ヶ月)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 平成29年7月

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供はHPにて公開をしている

自己点検自己評価による

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180731.pdf>

別紙様式4

<https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

法人決算書及び監査報告書

https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_01.pdf

https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_02.pdf

学校関係者評価委員会報告書

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018071901.pdf>

学校関係者評価結果及び改善方策

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018022302.pdf>

授業科目等の概要

(医療専門課程バイオテクノロジー学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報科学Ⅰ	コンピュータを用いた文書処理アプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。試験によって評価する。	1通	60	2	○			○			○	
○			情報科学Ⅱ	コンピュータを用いた表計算処理アプリケーションの高度な使用方法を学ぶ。試験によって評価する。	2通	60	2	○			○			○	
○			情報科学Ⅲ	コンピュータによるプレゼンテーションの基本的な方法を学ぶ。試験によって評価する。	3前	30	1	○			○			○	
○			体育Ⅰ	心身の健康の維持、増進をはかり、実践を通して生涯の健康を意識する。レポートと出席によって評価する。	1前	30	1	○			○			○	
○			体育Ⅱ	心身の健康の維持、増進をはかり、実践を通して生涯の健康を意識する。レポートと出席によって評価する。	1後	30	1	○			○			○	
○			講読演習Ⅰ	職業人を目指すために、何が必要かを考え実践する。レポートと出席によって評価する。	1通	60	2	○			○			○	
○			講読演習Ⅱ	社会人としてのマナーを身につけるとともに、就職に対する意識付けと就職活動の準備を行う。レポートと出席によって評価する。	2通	60	2	○			○			○	
○			英会話	英会話を通じ、国際的コミュニケーション能力を身につける。試験によって評価する。	1前	30	1	○			○			○	
○			バイオサイエンス演習	バイオテクノロジーに関する国際的な視野と見聞を広める。レポートと出席によって評価する。	2後	30	1	○				○	○		
○			就職講座Ⅰ	就職活動に向けて、国語・数学などの基礎学力向上を目指す。試験によって評価する。	2後	30	2	○			○			○	
○			業界研究Ⅰ	協力企業と連携し、将来像を描くための業界研究を行う。レポートと出席により評価する。	1後	30	1	○			○			○	○

○		業界研究Ⅱ	協力企業と連携し、将来像を具体化するための業界研究を行う。レポートと出席により評価する。	2 後	30	1		○	○			○	○
○		化学	化学の基本的概念（エネルギー、粒子）及び基礎的事項を理解し化学的に考察する能力を育てる。試験によって評価する。	1 前	45	3	○		○			○	
○		生物学	生物や生物現象について、興味や関心を高める。試験によって評価する。	1 前	45	3	○		○			○	
○		生化学Ⅰ	生体を構成する物質の基本を学習する。試験によって評価する。	1 後	30	2	○		○			○	
○		生化学Ⅱ	物質代謝の基本的骨組みを学習する。試験によって評価する。	2 前	30	2	○		○			○	
○		有機化学	有機化学の基本を身につける。試験によって評価する。	1 後	30	2	○		○			○	
○		分析化学Ⅰ	反応や化合物あるいは分析の基本となる原理について理解する。試験によって評価する。	1 前	30	2	○		○			○	
○		分析化学Ⅱ	定量分析及び機器分析の基本について理解する。試験によって評価する。	1 後	30	2	○		○			○	
○		微生物学Ⅰ	微生物の分類、生態について学ぶ。試験によって評価する。	1 前	30	2	○		○			○	
○		微生物学Ⅱ	微生物の応用について学ぶ。試験によって評価する。	1 後	30	2	○		○			○	
○		分子生物学	原核生物と真核生物それぞれから見た遺伝子発現について学ぶ。試験によって評価する。	1 前	45	3	○		○			○	
○		遺伝子工学	遺伝子工学に頻繁に用いられる材料とその原理について理解する。試験によって評価する。	1 後	30	2	○		○			○	
○		基礎実習Ⅰ	実験の化学的概念を学ぶ。レポートと出席によって評価する。	1 前	45	1			○	○		○	
○		基礎実習Ⅱ	実験を通して生命の仕組みを学ぶ。レポートと出席によって評価する。	1 後	45	1			○	○		○	

○	生命工学概論 *4	核酸や安全管理、動植物、微生物のバイオテクノロジーに関する高度な知識を学ぶ。試験によって評価する。	3 後	45	3	○			○		○	○	
○	バイオ実験技術論V *4	バイオテクノロジー分野の仕事に必要な知識と技術を習得する。レポートと出席により評価する。	3 後	45	3	○			○		○	○	○
○	微生物学実習	微生物の基礎的な取扱を学ぶ。レポートと出席により評価する。	1 後	45	1				○	○		○	
○	応用実習Ⅱ	化学・遺伝子工学などに関する実験技術と論理的思考方法を習得する。レポートと出席により評価する。	2 前	90	2				○	○		○	
○	農業植物学	コメや葡萄をはじめとする商品作物の生態について学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	
○	商品開発実習Ⅱ *5	食品の開発や、製造から販売につながる手段について理解する。レポートと出席によって評価する。	3 前	45	1				○	○		○	
○	バイオテクノロジー技法 *5	社会人として必要とされる知的財産等に関する知識を学ぶ。レポートと出席によって評価する。	3 前	45	1				○		○	○	○
○	公衆衛生学	産業衛生、環境衛生などの立場から公衆衛生を学ぶ。試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○			○	
○	応用実習Ⅲ-A	食品衛生検査についての実習を行い、評価法について学ぶ。レポートと出席によって評価する。	2 前	45	1				○	○		○	
○	食品化学実習	食品に関する基本的な技術を習得する。レポートと出席によって評価する。	2 前	45	1				○	○		○	
○	食品化学	食品成分の栄養性、嗜好性、安全性に関する諸機能について基礎的な理解を目指す。試験によって評価する。	2 後	30	2	○			○			○	
○	販売士3級	3級販売士検定合格を目指す。試験によって評価する。	2 後	45	3	○			○			○	
○	醸造学	酒造の文化的な側面から、微生物による発酵の原理まで酒造りに関して広く理解する。試験によって評価する。	2 後	30	2	○			○			○	
○	醸造実習	酒造りの原理を理解し醸造に必要な技術及び微生物のコントロールを学ぶ。レポートと出席によって評価する。	2 後	45	1				○	○		○	

○	商品開発実習 I	食品の開発や、製造から販売につながる手段について理解する。レポートと出席によって評価する。	2後	45	1			○	○		○
○	食品分析実習	食品の分析方法を学びその技術を習得する。レポートと出席によって評価する。	2後	45	1			○	○		○
○	食品開発実習	食品の開発や、製造から販売につながる手段について理解する。レポートと出席によって評価する。	2後	45	1			○	○		○
○	H A C C P 概論 *6	食品衛生のための管理手法としてのH A C C Pシステムを学ぶ。	3前	30	2	○			○		○
○	バイオ実験技術論 II *6	バイオテクノロジー関連の文献を読み解くために必要な、一般的な英語力を身につける。出席とレポートによって評価する。	3前	30	2	○				○	○
○	農産物利用学 *7	栽培植物等を使用した食品の加工とその化学的性質について学ぶ。試験によって評価する。	3前	30	2	○			○		○
○	バイオ実験技術論 III *7	バイオテクノロジー分野の仕事に必要な知識と技術を習得する。レポートと出席により評価する。	3前	30	2	○				○	○
○	卒業実習 I - A *8	卒業研究のテーマに従って実験を行う。中間審査によって評価する。	3前	180	4			○	○		○
○	卒業実習 I - B *8	卒業研究のテーマに従って実験を行う。中間審査によって評価する。	3前	180	4			○		○	○
○	インターンシップ I *8	自己の職業適性を把握した後、希望分野の企業において職業研修を行う。レポートと出席によって評価する。	3前	180	4			○		○	○
○	卒業実習 II - A *9	卒業研究として実験を行い結果のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの審査によって評価する。	3後	225	5			○	○		○
○	卒業実習 II - B *9	卒業研究として実験を行い結果のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの審査によって評価する。	3後	225	5			○		○	○
○	インターンシップ II *9	実務実習のまとめを企業において研修する。レポートと出席によって評価する。	3後	225	5			○		○	○
○	卒業実習 III - A *10	卒業研究のまとめを行う。卒業論文審査によって評価する。	3後	135	3			○	○		○

○	卒業実習Ⅲ-B *10	卒業研究のまとめを行う。卒業論文審査によって評価する。	3 後	135	3			○	○	○	○
○	インターンシップⅢ *10	実務実習のまとめを企業において研修する。レポートと出席によって評価する。	3 後	135	3			○	○	○	○
○	公害基礎Ⅱ	公害防止管理者試験に合格する為の知識を身につける。レポートにより評価する。	1 前	30	2	○		○		○	
○	放射線概論	放射線取り扱いの基礎と放射線の物理学、化学、生物学を学ぶ。試験によって評価する。	1 後	30	2	○		○		○	
○	生命工学特論	ヒトのがん遺伝子、免疫関連遺伝子遺伝病、遺伝子診断などについて解説する。試験によって評価する。	2 前	45	3	○		○		○	
合計			72科目		2685単位時間(112 単位)		

*1~10の科目は、どれか1科目を選択

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各授業の出席率が75%をこえること/定期試験等に合格すること/ 各年次の規定時間数を出席すること	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	26週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。